

第1学年 国 語

1 学習の進め方

- (1) 教科書に準拠して授業を進めます。
- (2) 話をしっかり聴いて、工夫しながらノートを取り、プリントに記入しましょう。
- (3) 考えるときには自分なりによく考え、できるだけ自分の言葉で文章に表現しましょう。
- (3) 毎週1回、新出漢字テスト(10題)を行います。
- (4) わからないことは積極的に質問して理解に努めましょう。

2 学習(授業)上の注意点

- (1) 授業に必要なものを忘れないようにしましょう。
…教科書、ノート2冊、国語便覧、ファイル、漢字ファイル、文法ワーク
書写では、書写の教科書、鉛筆、習字道具など
- (2) 字は楷書(くずさない書き方)で、濃く、大きく、ていねいに書く習慣を身に付けましょう。(特に漢字テストや定期考査時の漢字の書きとり問題)
- (3) 提出物は期限を守りましょう。(ただし、期限だけでなく、本当に自分の力になるやり方で取り組めたか、が重要です)
- (4) 自分から積極的に学習や課題に取り組みましょう。
- (5) 発言は大きな声ではっきりとクラスみんなに伝えましょう。
- (6) 失敗や間違いをおそれず、自分の考えを発表しましょう。

3 家庭学習の進め方

- (1) 読書や新聞などをとおして、活字に親しむ習慣をつけましょう。
- (2) 毎週実施する漢字テストで、満点をとれる学習の仕方を自分で工夫しましょう。
- (3) 文法については暗記する部分はしっかり暗記した上で、それらを活用していく内容が理解できているのか、復習し知識の定着を図りましょう。
- (4) 発表については、十分に練習を重ね、緊張の中でも力を発揮できるようにしましょう。
- (5) 家庭学習シートやチャックリストなどを活用して、自分なりの家庭学習のやり方を考えて取り組みましょう。

4 定期考査に向けての学習の取り組み方(基本的には中嶋の授業についてテストを作成)

- (1) 教科書、ノート、プリント類を、関連するところは照らし合わせながら見直し、十分に理解できているか確認しましょう。
- (2) 漢字は正しく書けるまで繰り返し練習しましょう。(授業内で行った漢字テストで自分が間違えた字は、よくチェックしておきましょう)
- (3) わからないことがあったら、先生に質問して理解できるようにしましょう。

5 1年生での学習内容…授業時間は、週4時間（加藤3時間、吉岡1時間）年間140時間

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	言葉に出会うために 1 学びをひらく	10月	5 筋道を立てて
5月	2 新しい視点で	11月	6 いにしへの心にふれる
6月	情報社会を生きる 3 言葉に立ち止まる	12月	読書に親しむ
7月	読書生活を豊かに	1月	7 価値を見いだす
8月		2月	8 自分を見つめる
9月	4 心の動き	3月	8 自分を見つめる

※上記以外に文法や書写の授業があります。また、順序が入れ替わることもあります。

6 評価・評定について

評価とは、国語で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1 知識・技能

・我が国の言語文化に親しみ、言葉の特徴や使い方、漢字、情報の使い方などについて理解し正しく用いる。また文字を正しく整えて書く。

（定期考査、漢字テスト、書写など）

観点2 思考・判断・表現

A「話すこと・聞くこと」…相手や場面に応じ、適切に話すこと、表現の工夫を評価して聞くこと、などで、自身の考えを深める。

（発表、スピーチ、暗唱など）

B「書くこと」…目的や意図に応じ、論理の展開を工夫して書き、また文章を書くことで自身の考えを深める。

（定期考査、課題作文など）

C「読むこと」…目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して自己の向上を目指す。

（定期考査など）

観点3 主体的に学習に取り組む態度

・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め国語を尊重する。

（定期考査、提出物の提出状況・内容など）

7 備考（注意事項・アドバイスなど）

第1学年 社会科

1 学習の進め方

- (1) 1・2年生で地理・歴史、3年生で公民を学習する
- (2) 教科書に準拠して授業を展開する
- (3) 単元によって、グループでの話し合いや意見を交換する時間を設けます
- (4) 資料を整理し、わかりやすくまとめる時間を設けます
- (5) 状況に応じて小テストを実施する

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 授業は、フラットファイルに保管する授業プリントで学習を進める。
- (2) 地理と歴史で別々のファイルを使用する。
- (3) 授業中に板書したこと、説明したことのうち必要と思うことは積極的にメモしましょう。
- (4) 重要語句はマーカー・色ペンでチェックする等、授業プリントのまとめ方を工夫しましょう。
- (5) 調べ学習やグループでの話し合い活動には積極的に参加しましょう

3 家庭学習の進め方

- (1) 復習をする場合には、授業プリントと教科書を照らし合わせ、よく確認しましょう。学習したことは忘れる前にワークで確認することも大切です。
- (2) 予習をする場合には、教科書をよく読み、太字で表記されている重要語句を確認しておくようにしましょう。
- (3) 定期考査前には学習したことを（自分で）ノートにまとめてみるのも有効な勉強方法です。授業プリント、教科書、ワークを活用して「ノートまとめ」をしてみましょう。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 授業プリントと教科書を照らし合わせ、振り返りましょう。「ノートまとめ」は有効な勉強方法です。
- (2) ワークの問題を解き、知識が定着するようにしましょう。ワークは反復して解けるよう、付属のノートを活用すること。
- (3) 学習の基本は、用語や地名などの重要語句を覚えることです。さらに単元の流れを理解することを心がけましょう。自分の言葉で重要語句の意味や、単元の流れを説明できるようにしましょう。

持ち物 地理のとき→教科書・ファイル（授業プリント）・地図帳・ワーク

歴史のとき→教科書・ファイル（授業プリント）・ワーク

※持ち物は全てロッカーに置いて構いませんが、授業開始の時には机上に準備した状態でいてください

※授業プリントをファイルする時はきちんと折って、ていねいに保管するようにしてください。

5 1年生での学習内容（授業時間は、週3時間、年間105時間）

月	学習内容	月	学習内容
4月	地理 ・世界の姿	10月	地理 ・世界の諸地域 オセアニア
5月	地理 ・世界の人々の生活と環境	11月	歴史 ・人類の誕生、 ・縄文・弥生時代、古墳時代
6月	地理 ・世界の諸地域 アジア ヨーロッパ	12月	歴史 ・奈良時代、平安時代
7月	地理 ・世界の諸地域 アフリカ	1月	歴史 ・鎌倉時代、室町時代
8月		2月	歴史 ・室町時代、大航海時代
9月	地理 ・世界の諸地域 北アメリカ 南アメリカ	3月	歴史 ・安土桃山時代

6 評価・評定について

評価とは社会科で身に付けてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1 社会的事象への知識・技能

日本の国土と歴史に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。

（評価材料）定期考査、小テスト、ワークや教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題など

観点2 社会的な思考・判断・表現

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理や歴史に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。

（評価材料）定期考査、小テスト、ワークや教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題など

観点3 主体的に学習に取り組む態度

授業やグループワーク、調べ学習などに積極的に取り組み、よりよい社会の実現のために課題を主体的に解決しようとしている。

（評価材料）授業、ファイル（授業プリント）、ワークへの取り組み方、その他条業に応じて課される提出課題など

例：ファイル（授業プリント）の評価

授業中に説明したことを工夫しながらまとめている：S 授業中に説明したことをまとめている：A

第1学年 数 学

数学の授業は、週4時間です。

1 学習の進め方

1時間の中にできるだけ多くの問題を扱うようにする。

- (1) 講 義・・・教科書の内容をプリントに整理し、問題を解きながら理解する。
途中の過程を確実に書くようにする。
- (2) 問題 演習・・・教科書の問や黒板に書いた問題を解く。
- (3) ワーク学習・・・授業の進み具合に応じて、進める。
- (4) 宿 題・・・ワークは授業の進み具合に応じて宿題とする。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) ノートを取ることに、考えるところはしっかりと考えることが大切。
- (2) 解らないことはそのままにせず、解るまで質問する。
- (3) 途中式を必ず書く。
- (4) 間違いを直すときは、その理由を大切にす。必ずやり直す。
- (5) 毎授業、振り返りシートを使いその日の授業を振り返る。

3 家庭学習の進め方

- (1) ワークは授業の進度に合わせて進める。授業の進み具合に応じて宿題とする。
毎日の復習として取り組む。
- (2) ワークなどの課題は丁寧に取り組む。間違えたときは、もう一度取り組み、間違いを見つけ、直す。解らないときは答えを見て考えてよい。答えだけを書くのではなく、途中の計算過程を書く。

※ワークの進め方※

- ① 自分で解く。答え合わせをする。
- ② 間違えた問題は、どこを間違えたか確認する。
- ③ 解らないときは解答を見ながら考える。
- ④ 解らない問題は先生に聞く。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 試験範囲の問題をやり直す。
- (2) ノートで語句の意味やポイントを確認する。
- (3) 時間があれば、さらにいろいろな問題を解くことにチャレンジする。

5 1年生での学習内容 (授業時間は、週4時間 年間140時間)

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	第1章 正負の数	10月	第3章 方程式 第4章 比例と反比例
5月	第1章 正負の数	11月	第4章 比例と反比例 第5章 平面図形
6月	第2章 文字と式	12月	第5章 平面図形
7月	第2章 文字と式	1月	第6章 空間図形
8月	夏休みのため 授業なし	2月	第6章 空間図形 第7章 データの分析と活用
9月	第3章 方程式	3月	第7章 データの分析と活用 1年間のまとめ 演習問題

6 評価・評定について

(1) 観点別評価は、下記の項目・割合で算出し達成度によりABCで評価します。

観 点	観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
内 容	計算やグラフを書くなど、 数学的に処理することができるか。	先を読む力、根拠を説明する 力など身に着けているか。	数学的活動の楽しさや数学の 良さを実感し、活用としているか。
評 価 材 料	☆定期考査 ☆小テスト等	☆定期考査 ☆小テスト等	☆授業への取り組み ☆振り返りシート ☆ノートの記入 ☆テストの振り返り ☆ワーク ☆宿題 ☆提出物

(2) 評価は観点を算出し、達成値により評定を算出します。

7 その他

(1)長期休業中等に補充教室を行います。

第1学年 理 科

1 担当教員 前田 圭介 (授業時間は、週3時間 年間105時間)

2 1年生での学習内容

月	学 習 内 容		学 習 内 容
4月	単元1:生物の観察と分類のしかた	10月	単元2:物質の姿と状態変化
5月	単元1:植物の分類	11月	単元3:光の世界 音の世界
6月	単元1:動物の分類	12月	単元3:力の世界
7月	単元1:動物の分類	1月	単元4:火をふく大地
8月	授業はありません	2月	単元4:動き続ける大地
9月	単元2:身の回りの物質とその性質 気体の性質 水溶液の性質	3月	単元4:地層から読みとる大地の変化

3 持ち物について

- (1) 教科書、ノート、資料集(理科便覧)、のり、理科ファイルはいつも用意してください。
(5点セット)
- (2) 計算・作図の基本と活用ブックは、指示をしたときに用意をしてください。
- (3) グラフを描いたり、光線を描くときには定規を準備しておいてください。

4 授業では…

- (1) 観察・実験プリントは返却後ノートに貼り付ける。それ以外の資料プリントや確認発展プリントは理科ファイルで保管すること。
- (2) 実験室を使用するときは、使用上の注意にしたがってください。また、実験・観察ごとに薬品や実験器具・装置の使い方などの注意があるので、しっかりと確認をしていきましょう。
- (3) わからないことはそのままにせず、積極的に質問をしましょう。
(授業中に質問できないときは、授業後や昼休み、放課後を利用する。)

4 家庭学習の進め方

- (1) 理科では、教科書の予習をする必要はありませんが、実験の前などは、実験の方法などを読んできてもらうときもあります。
- (2) 授業の復習が大事です。教科書をよく読み返し、ノートやプリントを見直したり、確認発展プリントや試験対策プリント、教科書の単元末・章末問題で問題を解く練習などをしたりし

ましょう。

(3) 自分で調べてもわからないことは、そのままにせず、積極的に質問してください。

(3) 小テストの振り返りや定期テストのやり直しを行いましょう。

5 評価について

●主体的に学習に取り組む態度 ●思考・判断・表現 ●知識・技能

3つの観点別でA・B・Cの三段階で評価します。

A…80%以上達成 B…79%～50%達成 C…49%以下達成

その後、これらの観点から5段階で評定をつけます

5…達成度90%以上 4…達成度89%～80%

3…達成度79%～50% 2…達成度49%～20% 1…達成度19%以下

〈実験プリント等の評価〉 S →7点 A→5点 B →3点 C→1点 ㊦→0点

●主体的に学習に取り組む態度

・自ら学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしているか。

～評価材料～①授業態度や実験の取り組みのようす

②授業ノート

③実験プリント、レポート課題

④提出物

●思考・判断・表現

・実験や観察した結果を自ら分析し、わかりやすく表現することができるか。

～評価材料～①実験プリント、レポート課題

②定期テスト、小テスト

③授業ノート

●知識・技能

・基本的な科学的な概念や法則を理解しているか。

・実験器具を正しく、安全に使うことができるか。

・実験や観察の結果などの情報を丁寧に記録、整理し、活用することができるか。

～評価材料～①実験プリント、レポート課題

②定期テスト、小テスト

③実技テスト

第1学年 音楽

1 学習の進め方

- (1) 前時の振り返り・本時の予定の確認
- (2) 発声練習、校歌
- (3) 合唱練習（パート、全体）
- (4) プリント学習
- (5) 本時の振り返り・次回の予定

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 苦手なことにも前向きに一生懸命取り組みましょう。
- (2) 周りに遠慮せず、豊かに自己表現をしましょう。
- (3) 楽譜にしっかりメモをしましょう。
- (4) プリントの内容やわからないことをそのままにしないようにしましょう。

3 家庭学習の進め方

- (1) 宿題や提出物は期日を守って取り組みましょう。
- (2) 実技テスト前は、家庭でも確認の練習をしましょう。
インターネットの動画や音源を利用して実技の練習をするのも良いと思います。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 基本的に授業で話したことを出題するため、授業内容をしっかり聞きましょう。
- (2) プリントにしっかり目を通しましょう。
- (3) わからないことはそのままにせず、質問しに来てください。

5 1年生での学習内容（授業時間 1・2 学期週 1.3 時間 3 学期週 1 時間 年間 45 時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	歌唱：校歌（斉唱） 鑑賞：音符、リズムアンサンブル	10月	歌唱：校歌 各クラスの自由曲 鑑賞：魔王
5月	歌唱：実技テスト（校歌） 鑑賞：変声期、合唱 リズムアンサンブル	11月	歌唱：浜辺の歌 実技テスト（浜辺の歌） 器楽：三味線
6月	歌唱：夢の世界を 各クラスの自由曲 鑑賞：春一第1楽章一	12月	器楽：実技テスト（三味線） 創作：リズム創作
7月	歌唱：校歌 各クラスの自由曲	1月	歌唱：校歌（混声三部合唱） 鑑賞：雅楽「越天楽」
8月	夏休みのため 授業なし	2月	歌唱：校歌（混声三部合唱） 卒業式・入学式歌
9月	歌唱：校歌 各クラスの自由曲 鑑賞：魔王	3月	歌唱：校歌（混声三部合唱） 卒業式・入学式歌 離任式歌「さようなら」

6 評価・評定について

評価とは、音楽で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1 【知識・技能】

定期テスト

提出物（ワークシート）

実技テスト（発声、姿勢・身体の使い方、発音など）

観点2 【思考・判断・表現】

定期テスト

提出物（ワークシート）

実技テスト（音色、表情、強弱表現など）

観点3 【主体的に学習に取り組む態度】

授業への取り組み（発言、ワークシート、練習態度、実技テストへの取り組みなど）

提出物（ワークシート、振り返りカード）

第1学年 美術

1 担当教員

田 和

2 学習の進め方

- (1) 基礎、基本技法を身に付けます。
- (2) 参考作品や資料を基にアイデアを練ります。
- (3) 制作の順序を考え見通しを持って作業を進めます。
- (4) 材料や用具を生かし意図に応じて工夫して表します。
- (5) 他生徒の作品の良さ、自分の作品の良さに気づき伝え合います。

3 学習（授業）上の注意点

- (1) 表現することを楽しんで活動しましょう。
- (2) 表現したいイメージや主題を明確にしましょう。
- (3) 授業準備をしっかりとしましょう。（材料、資料やアイデアに関するものを含む）
- (4) 授業時間の中で制作の時間配分を工夫して進めましょう。

4 家庭学習の進め方

- (1) 発想するための情報を集めてみましょう。
- (2) 学習内容に関連したものに関心を持つようにしましょう。
- (3) 情報を発想や構想に生かして表現したり、鑑賞したりできる体験を積み重ねましょう。
- (4)

5 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 授業課題に関連した教科書、資料集、プリント内容の確認をしましょう。
- (2) 基礎知識を実技に活用できるようにしておきましょう。
- (3) テスト範囲に含まれる内容に関連した事に関心を持つようにしましょう。
- (4) 授業の振り返りをして、課題を次に生かすようにしましょう。

6 1年生での学習内容（授業時間は、週1.5時間 年間45時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	自己紹介：花のスケッチ 鑑賞：私の一点	10月	生活をいろいろ文様 平面構成：和の文様・和の色
5月	色の学習	11月	平面構成：和の文様・和の色
6月	絵の具の混色 さまざまな表現：	12月	木彫の技法
7月	和の文様 色覚の多様性	1月	木彫なべしき
8月	夏休みのため 授業なし	2月	木彫なべしき
9月	鑑賞：風神雷神図屏風 さまざまな技法で音を表現する	3月	木彫なべしき 鑑賞

7 評価・評定について

評価とは、美術で身につけてもらいたい5つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことで、評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1

- ・ 期末テスト
- ・ 実技テスト
- ・ 作品

観点2

- ・ 期末テスト
- ・ ワークシート
- ・ アイディアスケッチ
- ・ 作品解説カード

観点3

- ・ 期末テスト
- ・ 作品制作過程、提出
- ・ 授業への取り組み（授業カード）
- ・ まとめワークシート

8 備 考（注意事項・アドバイスなど）

第1学年 保健体育

1 学習の進め方

- (1) 四中ストレッチを行います。
- (2) 準備運動の後に主運動を行います。
- (3) 必要に応じて学習カードを活用します。
- (4) 必要に応じて映像の活用や示範を行います。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 体調が悪い場合はすぐに伝えてください。
- (2) 安全に留意して、真剣に取り組みましょう。
- (3) 教師の話をよく聴き、自ら考え、主体的に取り組みましょう。
- (4) わからないことはそのままにせず、聴くなどして解決しましょう。

3 家庭学習の進め方

- (1) 自分に合った運動に取り組みましょう。わからないときは聴きましょう。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 授業で学んだことを振り返りましょう。
- (2) 「図解中学体育」を活用しましょう。
- (3) 「新中学保健体育」を活用しましょう。
- (4) わからない時は積極的に聴きましょう。

5 1年生での学習内容（授業時間は、週3時間 年間105時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	陸上競技 体づくり運動	10月	マット運動 バレーボール 保健
5月	陸上競技 体づくり運動	11月	陸上競技 保健
6月	ソフトボール 保健	12月	長距離走 バドミントン ダンス
7月	水泳 体育理論	1月	バドミントン 保健 ダンス
8月	夏休みのため 授業なし	2月	サッカー バスケットボール 保健 剣道
9月	マット運動 バレーボール	3月	サッカー バスケットボール 保健 剣道

6 評価・評定について

評価とは、保健体育で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1 【運動や健康・安全についての知識・技能】

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに、基礎的な技能を身に付けることができる。

（評価材料）*技能テスト *授業中の技能 *定期考査 *学習カード

観点2 【運動や健康・安全についての思考・判断・表現】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

（評価材料）*学習カード *授業中の表現 *定期考査

観点3 【運動や健康・安全について主体的に学習に取り組む態度】

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとしている。また、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をしようとするとともに、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営もうとしている。

（評価材料）*授業の取り組み *学習カード

第1学年 技 術

1 学習の進め方

- (1) 授業レポート記入・前時の振り返り・本時の予定
- (2) 作業の説明・諸注意
- (3) 作業
- (4) 片付け
- (5) 授業レポート記入・本時の振り返り・次回の予定

2 学習（授業）上の注意点

- ・ 技術の授業は、木工室を中心に使用します。
- ・ 授業開始前に、安全な実習にするため、先生の説明を聞くときは聞き、作業や活動に取り組むときは集中して取り組みましょう。
- ・ 作業の終わりには、片付け、清掃を行い、次の人が気持ちよく使用できるように、マナーを心がけましょう。その後、本日の進捗等を記入します。次の授業時、作業がスムーズに行えるよう、必要事項を記入しましょう。
- ・ 授業レポートは各自で保管します。ファイルは毎授業時に持参してください。
- ・ 授業レポートはその日のうちに仕上げる習慣をつけましょう。

3 家庭学習の進め方

- ・ 授業では必ず各自のレポートを持参してください。
- ・ 授業レポートはその日のうちに仕上げるのが原則ですが、授業進行が遅れている人は、次の授業までにお家で仕上げてください。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- ・ 授業で学習した内容を教科書やレポート等を中心に勉強します。

5 1年生での学習内容（授業時間は、週1時間 年間35時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	【 A 材料と加工の技術 】 製図	10月	【 A 材料と加工の技術 】 本立ての製作
5月	【 A 材料と加工の技術 】 製図	11月	【 A 材料と加工の技術 】 本立ての製作
6月	【 A 材料と加工の技術 】 製図	12月	【 A 材料と加工の技術 】 本立ての製作
7月	【 A 材料と加工の技術 】 設計	1月	【 A 材料と加工の技術 】 本立ての製作
8月	夏休みのため 授業なし	2月	【 A 材料と加工の技術 】 本立ての製作
9月	【 A 材料と加工の技術 】 本立ての製作	3月	【 D 情報の技術 】 計測と制御による問題解決

6 評価・評定について

評価とは、技術で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

★ 観点別評価と評価材料

観点1 【知識・技能】

* 期末考査 * 学年末考査

* ノート、レポートの取り組み状況、本立ての出来具合及び完成までの取り組み姿勢

観点2 【思考・判断・表現】

* 期末考査 * 学年末考査

* ノート、レポートの取り組み状況、本立ての出来具合及び完成までの取り組み姿勢

観点3 【主体的に学習に取り組む態度】

* 期末考査 * 学年末考査

* ノート、レポートの取り組み状況、本立ての出来具合及び完成までの取り組み姿勢

7 備 考（注意事項・アドバイスなど）

- ・ 技術では危険な機械や道具を使用することが多いです。授業中はつねに適度な緊張感をもって安全第一で実習・作業・学習に集中して取り組みましょう。
- ・ 技術室は、他学年の生徒も使用します。使用後の整理整頓を常に心がけ、次の生徒が気持ちよく使用できるよう心がけましょう。

第一学年 技術家庭科（家庭分野）

1 学習の進め方

- ・家庭科の授業は教室で行いますが、授業内容によっては調理室で行う場合もあります。
- ・毎時間、ワークシートを配布します。板書したり、先生の話聞いてメモをします。
- ・授業の終わりには、今日のまとめを記入したワークシートを提出します。

2 学習上の注意点

- ・チャイムと同時に挨拶ができるよう、準備や着席をしておく。
- ・授業は私語をせずに集中して取り組む。

3 家庭学習の進め方

- ・学習した内容を家庭で実践する。
- ・授業プリントを参考に、教科書を復習する。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- ・授業プリントを中心に、教科書を復習する。

5 1年生での学習内容

月	学習内容	月	学習内容
4月	3年間の家庭科のガイダンス	1月	住まいのはたらきとここちよさ
	1. 食事の役割と食習慣	2月	① 住まいのはたらき
5月	① 食事の役割	3月	② 住まいの空間
6月	② 健康によい食習慣		安全な住まいで安心な暮らし
	2. 中学生に必要な栄養を満たす食事		① 家庭内事故への備え
7月	体に入った栄養素のゆくえ		② 災害への備え
	① 中学生の発達と必要な栄養		持続可能な住生活
	② 栄養素のはたらきと6つの基礎食品群		持続な住生活をめざして
	1日にとりたい食品と分量		学習のまとめ
	③ 栄養バランスを目で見て判断		
9月	3. さまざまな食品とその選択		
	食品が食卓にのぼるまで		
10月	① 生鮮食品の選択と保存		
	② 加工食品の選択		

11月	③ 食品の安全と情報 4. 日常食の調理
12月	おいしさと調理 5. 地域の食文化 日本各地の郷土料理 6. 持続可能な食生活 持続可能な食生活をめざして 学習のまとめ

6 評価・評定について

評価とは、家庭科の学習で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

★観点別評価と評価材料

観点1 【知識・技能】

* 定期考査、プリント、教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題。

観点2 【思考・判断・表現】

* 定期考査、プリント、教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題。

観点3 【主体的に学習に取り組む態度】

* 授業への取り組み姿勢、よりよい生活の実現のために課題を主体的に解決している。

* 授業プリント、その他状況に応じて課される提出課題。

第1学年 外国語（英語）

1. 授業の進め方

- (1) 授業のはじめに「帯活動（英語の歌、Q&A,ディクテーションなど、毎回短時間繰り返しおこなう学習）」を行います。
- (2) 授業は教科書、ワークシート、ワークを使用して、たくさんの活動（トレーニング）を行います。
- (3) 「英文を理解する」 → 「音読できる」 → 「書くこと・話すことができる」という流れで学習します。特に「音読」に力を入れていきます。

2. 学習上の注意点

- (1) 間違いを恐れず、積極的に取り組んでいきましょう。
- (2) 間違いを恐れずに大きな声で音読活動や声を出す活動に取り組んでいきましょう。
- (3) 英語は「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」など、実際に自分が使うことが求められます。授業だけでなく、家庭学習にも力を入れていきましょう。
- (4) わからなかったことは、その日のうちに確認し、そのままにしないようにしましょう。
- (5) 忘れ物をしないようにしましょう。
持ち物：教科書、ワーク、ノート、ファイル、辞書

3. 家庭学習の進め方 *復習に力を入れて取り組みましょう！反復練習が効果的です。

- (1) 教科書の本文を繰り返し音読練習しましょう。目標は「暗唱できるようになる（何も見ずにいうことができる）」です。教科書のQRコードや教科書CDを利用すると教科書の音声を聞くことができます。たくさん聞いて真似をしながら、ただ読むだけでなく発音やイントネーション等に気をつけて読めるようになりましょう。
- (2) 暗唱できるようになったら、ノートにその英文が書けるか、書いて練習してみましょう。書けなかった単語は繰り返し練習して書けるようにしましょう。
- (3) 英語を学習するときはできる限り、日本語訳せずに、イメージやジェスチャーで覚えるようにすると、英語を使いやすくなります。挑戦していきましょう。
- (4) 様々な形で英語に触れ、英語への興味関心を高めましょう。教科書の文だけでなく、英語の歌や映画等もおすすめです。

4. テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 音読を中心に取り組んでいきましょう。授業で触れた教科書、ワークシート、ワークの英文は全て暗唱できるようにすることを目標に取り組みましょう。
- (2) 暗唱できるようになった英文をノート等を書いて練習すること等に取り組んでみましょう。またワーク等を活用して、授業の復習に力を入れ、書く力を高めていきましょう。

5. 1年生での学習内容とテスト（予定）

（授業時間は、週4時間 年間140時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	Starter、 Lesson1	10月	中間テスト、 Speaking test2（他己紹介）、 Lesson6
5月	中間テスト、 Lesson1、 GET Plus1、 Lesson2	11月	Listen4、 Talk4、 Project2、 期末テスト
6月	GET Plus2、 Lesson3、 Listen1、 Talk1 Speaking test1（自己紹介スピーチ） Project1、 期末テスト	12月	Lesson7、 Listen5、 Talk5、 Get Plus5
7月	Lesson4、 Listen2、 Talk2、 GET Plus3、 音読テスト	1月	Lesson8、 Listen6、 Talk6、 GET Plus6、 音読テスト
8月	夏休みのため、授業なし	2月	Reading for Fun、 1年間の復習、 Speaking test3（インタビューテスト） 学年末テスト
9月	Lesson5、 Listen3、 Talk3、 GET Plus4、 音読テスト	3月	1年間の復習

6. 評価・評定について

評価とは、英語で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点を総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1 <知識・理解>

観点2 <思考・判断・表現>

観点3 <主体的に学習に取り組む態度>

*授業やテストの中で、どの観点到点数を入れていくのか、伝えていきます。